



かしわざきという町

会長 松谷 栄



5代目会長本間さんの後を引き継ぎ父母の会会長として9ヶ月が過ぎようとしています。

この間、歴代の役員の方々が築き上げてこられた「学生・教職員の教育並びに福利の増進、大学と家庭との連絡協調による大学の発展」を目的とする父母の会を発展させるため他の役員の皆様と協力して事業を推進してきました。

6月の総会において承認頂きました新潟産業大学父母の会奨学貸付事業は多くの会員の皆様からご利用いただき好評を得ております。

メイン事業であります文化講演会は、紅葉祭期間中の10月31日に医学博士で東京国際大学及び慶応義塾大学教授の小此木敬吾氏を講師にお招きし、開催致しました。先生は、来るべき高齢化社会での女性の職場進出が社会を支える反面、出生率の低下をさらに招き、家庭での役割関係に変化が起きようと指摘、「個人の価値観や好みでなく、親子・夫婦・子育ての関係が大きな力を変わっていくを得ない」、また、「欧米並みに言葉と行動で親子・家族の役割をこなさないとバラバラになりか

発行所
新潟産業大学
父母の会事務局
〒945-1393
新潟県柏崎市井川4730
☎(0257) 24-6402
FAX 22-8241

父母の会総会

好天に恵まれた6月13日、今年も各地から熱心な会員が総会に出席した。

総会に先立ち、午前中に大学主催の個別面談が実施され、教務・学生・就職の各部に分かれ、教職員と父母との面談が行われた。初の試みで時間も十分ではなかったと思われるが、真剣に相談する姿に子を思う親の気持ちが伝わってきた。

総会ではまず松谷会長が会の趣旨に触れ、子供たちが混迷と変革の時代を生きる力を身につけ、大学と共に成長して行くためには、今まで以上に会員の協力が必要であると訴えた。

続いて荊木学長から父母の会に対する感謝の意が表された。更に大学を取り巻く厳しい状況に触れ、「教育に責任を持つ大学」として社会的評価を高めたいとの決意を語った。また、県内初の生涯学習センターを設置し、開かれた大学に向けて努力している点も紹介された。

この後事業・会計の報告と計画が説明された。中でも注目されるのは奨学貸付事業である。これは学費の支払いが困難な方に無利子で貸付を行う制度で、昨今の不況下に非常に有益な制度と言える。

引き続き、大学各部から現況報告がなされた。まず教務部長から、①解り易く計画的な授業、②着実な学力形成のための新カリキュラムの導入、③両学部間の単位互換制度、④社会人の受け入れ等についての説明があった。その他セメスター制や多様な補習授業、新潟工科大学との単位互換が検討中であることなどが紹介された。そして、日頃から子供の生活全般に関心を寄せてほしいと訴えた。次に就職課長から、不況を反映し求人

が大幅に減少しており、やる気のない者や出遅れ組が就職できるほど甘くない現状が説明された。そして、3年生はガイダンスや公務員講座に参加してほしいこと、4年生には最後の最後まで支援を続けることを強調した。

最後に学生部長が、交通事故撲滅に向けての対応と注意、多様な留学制度の紹介、学業成績優秀者に対する学費軽減制度などを説明した。

総会後の発表会では、まず留学生の演奏と舞踊が行われた。講堂は水を打ったように静まり返り、その芸術性の高さに観客は圧倒され、大きな拍手を送った。

卒業生による留学・就職体験談では、各自が実際に体験し感じたことをありのままに話し、深い感銘を与えていた。

その後の懇親会には発表者も参加し、父母との交流を行った。アンケートでも皆一様に発表会を絶賛しており、午前中の個別面談と合わせて非常に有意義な一日だったと高い評価を得た。

役員一同、今後も会員の満足を得られるような活動を推進していきたいと考えております。是非とも総会にご出席頂き率直なご意見をお聞かせください。



新潟産業大学父母の会総会

総会出席者の声

- ◆ 学内が明るくていいですね。大学長に期待しています。
- ◆ 留学生の発表会は感動しました。お金を払ってもまた見たいくらいです。
- ◆ 留学生のすばらしい演奏や舞踊を、学生も見る機会があるといいのですが。
- ◆ 今までに比べ、留学生の演奏や舞踊、卒業生の就職活動体験談等盛りだくさんで満足しました。
- ◆ 卒業生の就職活動体験談を聞き、家族の協力の必要性がわかりました。
- ◆ 就職活動体験談は、就職を身近に控えた親として考えさせられる内容がたくさんありました。
- ◆ 就職活動に対して感じていた不安が解消されました。
- ◆ 親元を離れて暮らす子供の実態がわかり、不安が解消されました。
- ◆ 初めて出席させて頂きましたが、とても楽しく勉強になりました。
- ◆ 迷っていたのですが、出席してとても良かったです。
- ◆ 入学したばかりですが、懇親会で先輩方のお話が聞けて参考になりました。
- ◆ 違う学年の父母の方と話ができて楽しい1日でした。
- ◆ 個別面談に多くの時間を割いて頂き感謝しています。来年もお願いします。
- ◆ 何かに前向きに挑戦し、いろいろな方々との出会いを通じて得るものが多い4年間であつてほしいと思います。
- ◆ また、親として何ができるか考えてみたいと思います。

個別面談



文化講演会



文化講演会

家庭のない家族 共に生きる明日を考える

小此木 啓吾氏

学園祭最終日、市内各地で様々な催しが行われたにも拘らず、文化講演会会場は問題意識の高い聴衆で埋め尽くされた。講演ではまず、ブチ家出、フリーター、援助交際、Eメール交際などに代表される若年層と親の世代間ギャップに触れ、彼らに対処する親の態度は、心情理解に努めるが故に一貫性に欠けるハト派より、確固たる態度で臨むタカ派の方が意外にも良い面が多く、これは会社における管理者と新人の関係にも通じると述べた。

また、欧米では大学生になれば親離れするのが当然であり、日本の親の甘さが若者の無気力を助長し、生存競争に敗北する要因になっていると指摘した。

更に、子供との関係は自分の親との関係の繰り返しなので、当時を思い出し、時に視野から消えても戻るまで耐え、困った時にはいつでも受け止められる親になるべきとの見解を示した。

続いて日本社会の展望では、高齢化社会を支えるための女性労働者の増加が少子化に拍車をかけ、老衰国家に至る危険性があると述べた。当然夫婦関係にも変化が生じ、子育てや介護等家事の分担で夫の協力が必要となるが、女性の思想の進歩に男性の意識変化が追いつかないのが現状である。欧米並みに未婚の母も増加するだろう。個々の理想とする家族観が、社会変化という現実によって変わらざるを得ない可能性が生じると語った。

最後に、これからの家族は以心伝心を隠れ簞に一緒に居るだけの閉鎖的な関係ではなく、離れていても各自が結び付く努力が欠かさず、地域社会とも関わりを持つことが重要であると訴えた。

講演後は質問が相次ぎ、テーマに対する高い関心が伺えた。期待に違わぬ内容の講演会だったと言えるだろう。

学生生活実態調査

本学学生は何を考え、どのような生活をしているのか、本年度4月に実施したアンケート調査の結果を報告します。

まず最初に、生活形態は7割の学生が自宅外通学者でアパート等に居住している。家賃は4万円未満が3割、4万円以上5万円未満が5割強であるが、その相場は下がっており、1年生だけを見ると4万円未満が4割強である。居住地域は柏崎駅周辺と大学周辺に二分される。自宅通学者は3割だが、新潟県内出身者の増加と共にその比率は上昇している。

次に通学手段だが、自動車が多くなり、スクールバス、路線バスが次に続く。自動車通学者が多い理由には、大学駐車場の整備・拡張と共に、自動車通学者を1年生にも許可したことが考えられる。

通学所要時間は30分以内が7割だが、90分以上かかる者も1割を占める。

続いて1か月の仕送り額を見ると、6万円未満、6～9万円、9～12万円がそれぞれ3割程度である。

足りない分はアルバイトで補うわけだが、学生の半数以上は経験があり、職種はサービスマン・接客・販売・軽作業が8割を占めている。収入は5万円未満が5割弱、5～10万円が4割である。その使途は、半数の学生が娯楽・交際費に、3割が生活費に、その次が貯蓄となっている。

海外渡航経験者を見ると、4年生では2割以上いる。また、人文学部では2割以上の学生が留学を予定している。

課外活動参加者は3割程度で、参加理由は友人を得るためや趣味と答え、不参加者は、忙しい、希望団体がない、煩わしいなどを理由としている。

学内の友人数は6～10人が最も多いが、1～5人や16人以上という学生も多く、友

人はいないと答えた学生も僅かながら存在する。友人のグループは半数はクラスの仲間と答えているが、大学以外との答えも3割を占める。そのうち親友がいるのは7割で、恋人がいるのは2割強となっている。

休日の過ごし方は、家にいる、友人と過ごす、アルバイトの順になっている。

現在の生活の中心は学業とする者が3割、交友関係が2割で、特にないと答えた者も2割以上を示す。

不安や悩みは勉学が圧倒的だが、3年生からは就職・進路が多数を占める。

「大学」とはの問いに対して、経済学部では将来役に立つ専門的知識を得る所と答えた者が最も多いのに対し、人文学部では学問をする所との答えが最も多い。以下両学部とも、学歴を得る所、友人を作る所、特に考えていないと続く。

学生生活全体に関しては、充実派が3割強、どちらとも言えないが3割強、非充実派が2割強となっている。

最後に保健面を見ると、学生生活の現状は健康上決して好ましいものとは言えない。具体例を挙げると、2年生以上の就寝時刻は24時以降が9割、1時以降でも6割いる。飲酒は8割が経験しており、内4割近い学生が飲酒を強要されたことがある。一気飲みも6割の学生が経験しており、急性アルコール中毒経験者も1割程度いる。喫煙者は男性で5割強、女性で3割程度となっている。

このように、誰にも干渉されない大学生生活では、自己規制心の未熟な学生が健全な生活を継続するのは難しいだろう。医務室の利用状況でも、「薬をもらおう」「けがの処置」に加えて、学年が進むに連れ「病気相談」「心理相談」「休養」が増加している点が目される。

以上、大まかに調査結果を報告しましたが、ご子弟の日頃の生活に照らし合わせて頂き、理解に向け更にコミュニケーションを取って頂ければ幸いです。

最近のカリキュラムについて

PART II

教務課

年が明けた1月18日(火)から27日(木)の間、学年末試験が実施されます(なお、28日と31日は電車などの公共交通機関の遅延等で試験ができなかった場合の予備日)。学生の皆さんには、4月に履修登録した科目について、でも多く評価「A」が取れるよう、これまで学習した成果を十二分に出し尽くして欲しいと思います。また、せっかく一生懸命勉強したのに、風邪をひいたりして体調を崩しては何にもなりません。健康管理にも十分注意をして、万全の態勢で試験に臨んで欲しいものです。

さて、父母の会会報第5号で「最近のカリキュラムについて」と題し、これまでのカリキュラムに対する考え方や、現在のカリキュラムの概要等を説明いたしました。今回は、経済学部、人文学部の主に新しいカリキュラムについて若干解説してみたいと思います。経済学部では平成10年、2度目のカリキュラム改革を実施しました。この新カリキュラムの概要は、次の通りです。1年次には「経済学」という学問への導入を意識し、基礎的な専門科目を配置し、それらを徹底的に学習します。2年次になると「経済コース」と「経営コース」に分かれ、卒業後の進路を見据えながら、より深く専門性を高めていきます。更に3年次には、「経済コース」を「現代経済と財政・金融」と「地域経済と地球環境」の「専攻」に、また、「経営コース」を「経営戦略と企業行動」と「企業会計と法律」の「専攻」に細分化し、ある程度履修科目の誘導化を図りながら体系的に学ぶことにより、無駄なく経済学というものが理解できるシステムになっています。

一方、人文学部は平成6年の開設時から4年間は文部省の監督下にあつた為、カリキュラムの変更等はできませんでしたが、平成10年に「カリキュラム検討委員会」を設

置し、検討を重ね、今年4月より新カリキュラムを導入しました。しかしながら、一貫して変わらない学部理念は、環日本海圏の国々であるロシア、中国、韓国・朝鮮の3コースから1つを選択し、語学教育を中心に、政治や文化、経済などをより深く学ぶことです。また、真の国際人を目指す為には、まず自国の文化や政治、経済をも知り得なければならぬという考えの基、日本文化・事情の科目を選択できるような配慮してあります。新カリキュラムの特徴の一つは、1年次より4年次まで基礎から応用へと段階的な履修が可能であり、またその中で、所属コース以外のコースの科目もある程度自由に選択できるような配慮してあるという点です。従つて、意欲のある学生は、環日本海圏の国々についてオールラウンドに学習できるようになっています。

また、1年次より「現地研修」という科目を設置しました。自己の所属コースの国や地域に実際に早い時点で行き、気候風土や歴史の足跡、社会や経済の仕組みなどを自分の目で確認することによつて、以後の学習に刺激・誘因を与える、より効果的、実際的な学習成果が得られることをねらっています。(旧カリキュラム履修者であっても単位は認定されますが、一緒に研修に行くことは可能です)。

更に、今年より経済学部と人文学部の学部間において、それぞれの学部で開設している科目を互いに履修できるようにしました。これにより、学生は選択肢の幅が増え、幅広い教養を身につけることが可能となりました。また、平成12年度からお隣の「新潟工科大学」と単位互換ができるよう現在着々と準備を進めているところです。学生の皆さんがこれらのシステムを大いに活用し、主体的学習を高め、大学でしかできない学習を実践して欲しいと願っています。

本学はこのような、学習意欲のある学生に対して100%の力が発揮できるようにシステムを常に考えています。ご不明な点がございましたら、何時でも教務課までお尋ね下さい。

就職課の掲示板は

A号館1階にあり

就職課

十一月二十四日、長野市内のホテルで信濃毎日新聞社主催による、企業採用担当者と大学就職担当者との「就職情報交換会」が開かれた。参加大学は本学を含め一〇九校。これに対し参加企業は、わずか四二社。前年比六社減、前々年比三〇社減となつた。第一部、大学のブース(テーブル)を回る採用担当者がよく見える。一社も企業が訪れない大学も数多い。本学にはホクト産業と松電商事が来てくれた。ありがたい。第二部では、逆に企業のブースを大学担当者が回る。ブースには列ができて待ち時間が長い。嫌気がさして帰ってしまう大学もあった。

今後、秋田魁新報、上毛新聞、新潟日報、下野新聞等が情報交換会を開催するが企業数は期待できない。富山県の北日本新聞と福井県の福井新聞は、参加企業不足で「情報交換会」中止のやむなきに至つた。地方新聞社の就職支援・採用支援のキャンペーン事業は、もともと地方出身の学生を地元企業にUターン就職させようという趣旨で十年ほど前から始められたが、地方経済の冷え込みで存続さえ危ぶまれる状況。このキャンペーン、一月からは、学生宛に参加企業のガイドブックと資料請求用ハガキの宅配・郵送が始まる。学生は、三年次の十一月頃までにプロフィール登録をすれば、このサービスを無料で受けられる。しかし、就職課の掲示板がどこにあるかも分からない。

い、就職ガイダンスよりアルバイト優先、自分の進路に無関心という学生は、折角のサービスも受けられないことになる。二月になるとよいよ、学生と採用担当者直接面談する「合同企業説明会」が新潟市産業振興センターや前橋ドームなど各地方の大会場で開催される。一昨年までは、六月頃まで五、六回開かれていたが、昨年、今年と四月が最終回というキャンペーンが多く、まさに短期決戦だ。

さて、集めた長野県の採用情報を何社か紹介したい。松電商事は、店舗数をほぼ倍増の八〇店舗に。南信地区だけでなく北信地区にも出店する。売上高一千億円、株式上場を目指し、五十名強を採用する。説明会は二月スタート、四月に最初の内定を出す。ホクト産業(平成十一年十一月東証一部上場)は、営業職五名、事務職三名の募集だが、包装資材の営業は別枠で新潟採用あり。四月内定、即終了と実に早い。長野信金は資料請求には一切応じない(今回、信金の資料を四部入手したので、事前に勉強したい学生は就職課へ)。合同企業説明会や信金に直接訪れた学生にのみ資料を手渡すとのこと。五月中旬に一次試験を行う。八十二銀行は大卒総合職四三名。長野銀行は、総合職二二名、一般職でも大卒を六名採用する予定。等々。

就職課では、これからホットな情報を大量に提供する。主な採用活動が五月に終了することは予測ではなく、紛れもない事実。学生には情報感度を高め、素早く行動することを望む。就職課と就職課の掲示板はA号館一階にあり。

寮母雑感

渡 辺 昭 代

本学男子寮で毎年1年生の猛者34人を預かり13年、寮母の渡辺さんに寮生を預かるの今昔についてお話を伺いました。まず、初期の寮は学年が混在していたが、上級生や個性が強い者にも意見できる雰囲気があり、今でも同窓会が開催されるほど結び付きが強かったそうです。中期になると、親元を離れ遊ぶことを前提に入学したのでは、と感じられる学生が出てきました。外づらと内づらの差があり、人によって評価は違ったが、他の寮生も影響を受け、夏休み明けには寮の雰囲気が一変したこともあったとか。また、初期の親御さんは子供について

は任せ切りでしたが、この頃になると頻りに電話したり、毎週のように実家に送迎する方が現れました。入寮時の問い合せや様々な手続き等も代行するなど、良くも悪くも子供を大事にする親の変化に、戸惑うことが多かったそうです。最近の寮生は、出身地に関係なく皆おしゃべりに気が使い、携帯電話は必需品。生活に困ってアルバイトに励むようなタイプは皆無で、サークル加入者も少数派のようです。共通して言えるのは、上下関係や目立つことを嫌い、小グループ内の付き合いが多いこと。その上、互いに傷つきのを恐れるがために言いたいことも言わないので、表面的な仲の良さを感じるとか。精神的な脆さを感じる学生も見受けられるようです。

一方では、世相を反映し一時のような浮ついた学生が減り、地に足のついた真面目な学生が増えてきているのも事実。特に今年の寮生はまとまりも良く、伸び伸びとした気持ちのいい子が多いとか。全てをさらけ出して学生に接することを信条とする渡辺さん。次はどんな若者が来るのやらと、期待と不安に胸膨らませる今日この頃なのでした。

軽井川選歌

子離れを せよとて見せる 成績表
 (親離れのよい子を持つ) 溜め息母
 にぎやかに 蛙の響き 安堵する
 山形・鈴木 由紀
 大学に 行っても面談 あるなんて
 新潟・悩む 母
 あやめ咲く 道を並んで 子らあるく
 新潟・大塚 昇
 青嵐 流れに逆らう
 川面かな
 青海波 米山望む 紅葉かな
 新潟・小田切知佐美
 親思う 心の中を 知らんげに
 弾んだ声の PHS
 新潟・佐藤 宏子
 化粧水 冷やす娘の 冷蔵庫
 新潟・斎藤 功
 知らせ待つ 凍れる日々は ぬかるみの
 田の中に去り 早苗そよぎぬ
 新潟・清水 千春
 肩の子が 指さす先に おぼろ月
 新潟・星野 明洋
 子の電話 用ある時は 金の催促
 新潟・本間美恵子
 帰るとも 帰らずとも 胸痛み
 新潟・松田 侯夫
 成人の 晴れの姿に 目もうるむ
 群馬・飯塚まさ江
 卒業の 記念にすべく 何とかと
 句をひねって 返信ぎりぎり
 群馬・関口 博子
 子供らの 明日を夢見て 寂しさ忘る
 富山・谷 正雄
 職安に 親子で出掛ける 大不況
 富山・平田 友邦
 宅急便 箱に詰たる 親心
 長野・赤城 弥生
 消費社会 ゴミもブランドもリサイクル
 愛知・井上 健彦

平成11年度 公認部活動成績一覧表 (ブロック大会以上)

平成11年4月1日～11月30日まで

公認部名	大会名	部門・種目	大会参加者・表彰者名(学年)	成績
卓球部	春季北信越学生卓球選手権大会	男子団体	石崎哲也(経4)・石橋 保(経2)組	優勝
		男子ダブルス	石川貴弘(経2)・工藤 基(人2)組	準優勝
	男子シングル	石橋 保 石崎哲也 松田 大(経1)	3位 3位 3位	
	全日本学生対抗卓球大会 夏季北信越学生卓球選手権大会	男子団体	Aチーム Bチーム	優勝 準優勝
		男子ダブルス	石崎哲也・石橋 保組 大久保洋介(人4)・鳥羽勇樹(経3)組	3位 3位
	全日本学生卓球選手権大会	男子シングル	石川貴弘・村越祐介(経1)組 村越祐介 石橋 保	3位 準優勝 3位
男子ダブルス		大久保洋介・鳥羽勇樹組 石崎哲也・石橋 保組 石川貴弘・村越祐介組 工藤 基・松田 大組	2回戦進出 出場 出場 2回戦進出	
秋季北信越学生卓球選手権大会	男子団体	若杉鉄也(経3)・石橋 保組	優勝	
	男子ダブルス	石川貴弘・鳥羽勇樹組 工藤 基・松田 大組	準優勝 3位	
全日本卓球選手権大会	男子シングル	村越祐介 石橋 保 石崎哲也 石橋 保	優勝 準優勝 3位 3位	
	男子ダブルス 混合ダブルス 男子シングル	石橋 保 工藤 基・松田 大組 石崎哲也 石橋 保	出場 出場 出場 出場	
バレーボール部	春季信越大学バレーボール大会 春季北信越大学男女バレーボール選手権大会 秋季北信越大学男女バレーボール選手権大会 ミキプルーンスーパーカレッジバレー	男子1部リーグ		準優勝
		男子2部リーグ		4位
水泳部	東日本水球リーグ戦 関東学生水球リーグ戦 日本学生選手権大会水泳競技	2部リーグ		準優勝
		1部リーグ		12位
空手道部	北信越学生空手道選手権大会 全日本学生空手道選手権大会 北信越大学空手道選手権大会 全日本大学空手道選手権大会	優秀選手	廣川 剛(経4)	出場
		男子団体	廣川 剛	3位
少林寺拳法部	少林寺拳法全国大会 北信越大学サッカーリーグ	組演武一般三段の部	伊藤 齊(経4) 伊丹裕三(経3)	出場
		1部リーグ		8位(2部降格)
サッカー部	春季北信越大学バドミントン選手権大会 秋季北信越大学バドミントン選手権大会	2部リーグ男子団体		4位
		2部リーグ女子団体		3位
バドミントン部	北信越学生空手道選手権大会 全日本学生空手道選手権大会	3部リーグ女子団体	女子3部MVP 西沢佳美(経2)	優勝(入替戦2部昇格)
		女子800m	金子夕香(人3)	決勝進出
陸上競技部	北信越学生陸上競技選手権大会 北信越大学対抗テニス王座決定試合	男子団体		優勝(入替戦5部降格)
		男子団体		3位
ソフトテニス部	春季北信越学生ソフトテニス大学対抗リーグ戦 秋季北信越学生ソフトテニス大学対抗リーグ戦	3部リーグ男子団体		5位
		2部リーグ女子団体		4位
硬式野球部	春季関東甲信越学生野球 秋季関東甲信越学生野球	3部リーグ		6位
		3部リーグ	ベストナイン大友和(経3)小坂祥平(経3)	4位 3位



紅葉祭 新入生歓迎会



大学行事予定 (11-12月)

- 1月
 - 5日水～7日金/補講日
 - 10日月/冬季休暇終了
 - 18日火～31日月/学年末試験期間
- 2月
 - 1日火/春季休暇開始
 - 1日火～3日木/スキー授業
 - 上旬/卒論口頭試問(人文4年生)
 - 17日木～18日金/就職合宿研修会(3年生)
 - 28日月～5月中旬/中国短期留学
- 3月
 - 3日金/学内合同企業説明会(約50社)
 - 中旬/成績表送付
 - 15日水/学費軽減申請締切
 - 19日金/卒業式
- 4月
 - 5日水/入学式
 - 6日木、7日金、10日月/ガイダンス・前年度成績発表
 - 7日金～8日土/新入生学外合宿研修
 - 11日火/前期授業開始
- 5月
 - 下旬/ロシア交換留学(予定)
- 6月
 - 2日金/創立記念日
 - 11日土/父母の会総会(予定)